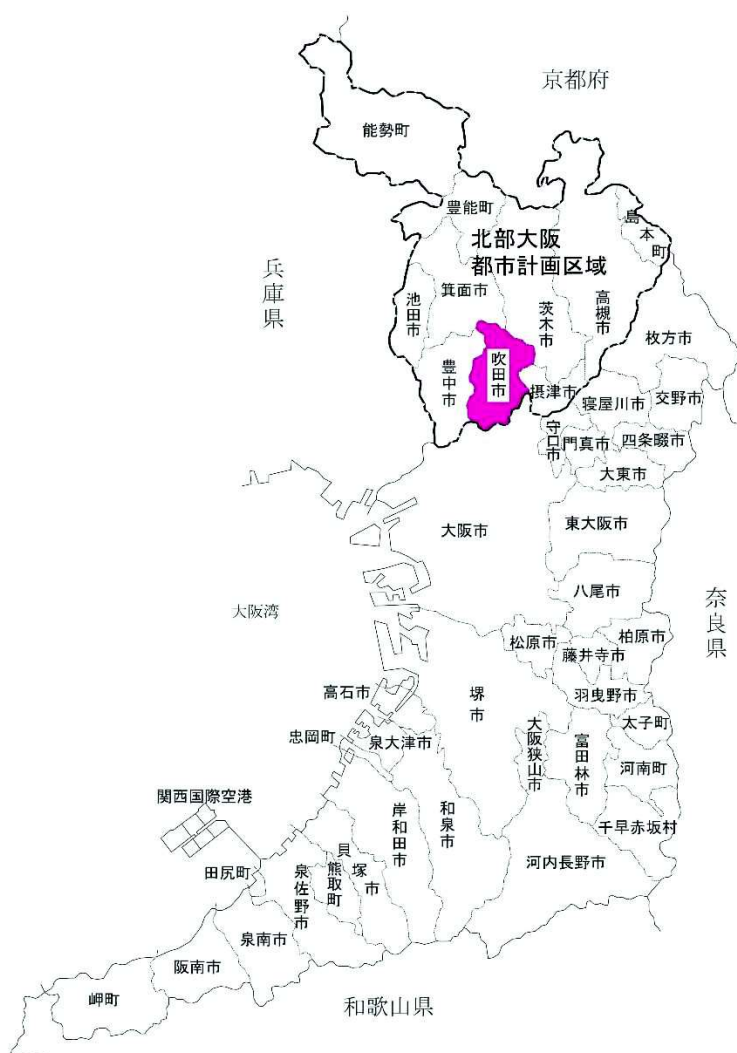


I 吹田市の概要 outline of suita city

1. 位置及び地勢

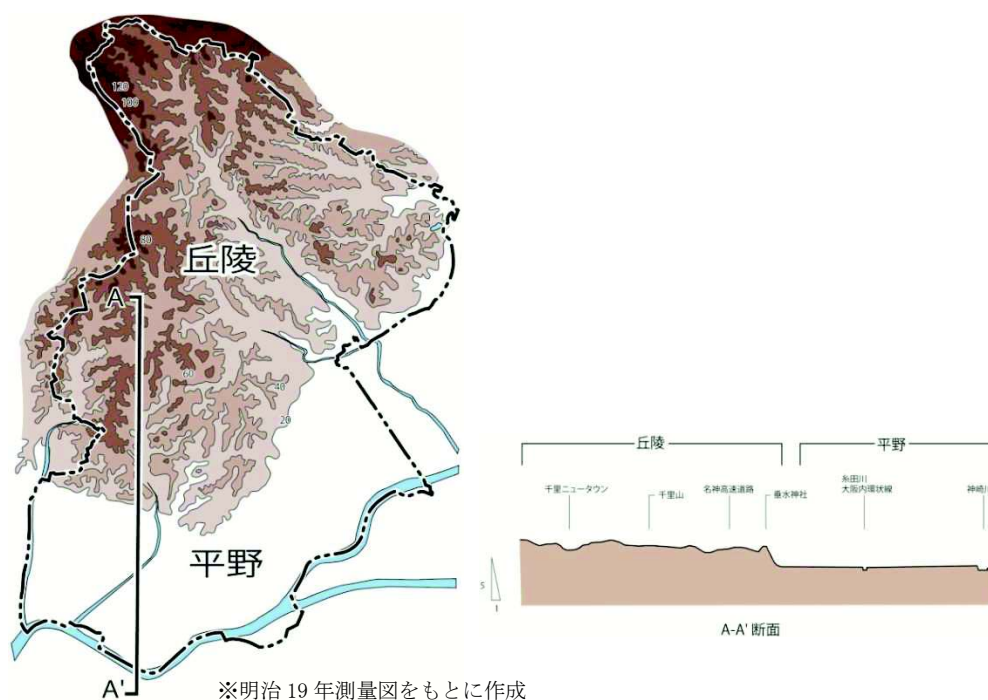
本市は大阪府の北部に位置し、南は大阪市、西は豊中市、北は箕面市、東は茨木市及び摂津市に隣接しています。市域内やその周辺には名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道、新大阪駅、大阪国際空港等の国土軸交通幹線や施設が配置され、大阪市の都心部へ10km圏にあるなど、至便な交通条件にあります。

◆ 位置図



地勢としては、市域北部は北摂山系を背景としたなだらかな千里丘陵、また、南部は安威川、神崎川や淀川をつくる低地となっています。

◆ 地形図



2. 沿革

本市域は水に恵まれた土地でかなり古くから生活が営まれていたようであり、縄文時代の石鏃や、弥生時代の銅鐸、銅鏡などが出土しています。

平安時代初め、三国川（神崎川）が淀川と接続され、京都と西国をつなぐ水路としての役割を担うようになると、旧吹田は交通の要衝として重要度が増しました。平安から鎌倉時代にかけては吹田荘、倉殿荘などの荘園が成立し、鎌倉時代には貴族の別荘が営まれました。

室町から戦国時代にかけて軍事上の要地として重視され、江戸時代になると仙洞御料（上皇の領地）や旗本の采地などに分けられました。明治 4 年（1871 年）の廃藩置県で大阪府に属するようになりました。

明治 9 年（1876 年）に大阪・京都間の官営鉄道（現在の JR 京都線）が開通し、大阪麦酒会社（現在のアサヒビール株）吹田村醸造所の竣工（明治 24 年（1891 年））、北大阪電気鉄道（現在の阪急千里線）十三・千里山間の開通（大正 10 年（1921 年））、吹田操車場の操業開始（大正 12 年（1923 年））など、大阪市の商工業の発展などに伴い市街化が進展してきました。

3. 市域及び人口

本市は昭和 15 年（1940 年）に三島郡吹田町、千里村、岸部村及び豊能郡豊津村の 1 町 3 村が合併し市制を施行したことにより、府下 7 番目の市として誕生しました。その後、昭和 28 年（1953 年）に三島郡新田村の一部（下新田）を編入、昭和 30 年（1955 年）には三島郡山田村を編入し、さらに昭和 33 年（1958 年）には本市の一部を茨木市に編入して現在の市域となりました。その後も数回にわたる隣接各市町との境界変更を経て東西 6.3km、南北 9.6km、面積 36.09 km²の市域が確定され、今日に至っています。

◆ 市域の変遷



年 月 日	摘 要	編入面積 (km ²)
昭和15年 4月 1日 (1940年)	吹田町・千里村・岸部村・豊津村合併 市制施行	20.45
昭和28年 7月 1日 (1953年)	新田村の一部(下新田)を編入	1.78
昭和30年10月15日 (1955年)	山田村を編入	15.90
昭和33年 1月 1日 (1958年)	吹田市の一部を茨木市に編入	△0.56
昭和38年 4月 1日 (1963年)	三島郡三島町の一部を編入	0.02
昭和40年 4月 1日 (1965年)	豊中市の一部を編入 吹田市の一部を豊中市に編入	0.14 △0.14
昭和43年11月 1日 (1968年)	豊中市の一部を編入 吹田市の一部を豊中市に編入	0.06 △0.06
昭和52年12月 1日 (1977年)	吹田市の一部を茨木市に編入	△0.00
平成 2年12月15日 (1990年)	豊中市の一部を編入 吹田市の一部を豊中市に編入	0.00 △0.00

※編入面積は、小数点以下第三位を四捨五入しています。

※市域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」により次のとおりです。

昭和 36 年(1961 年)10 月 5 日から 36.60 km²

平成 4 年(1992 年) 9 月 1 日から 36.11 km²

平成 26 年(2014 年)10 月 1 日から 36.09 km²

本市の人口は、千里ニュータウンの建設や万国博覧会、土地区画整理事業等による都市基盤の整備、また折からの高度経済成長の影響を受けて、昭和30年代後半（1960年代前半）ごろから急増し、増加傾向は、昭和60年代前半（1980年代後半）ごろまで続き、その後一時的に減少傾向となったものの、近年は、再び増加傾向となっています。

◆ 人口の変遷（国勢調査報告）

各年10月1日現在

年次	人口(人)	対前回増加率(%)	市域面積(ha)	人口密度(人/ha)
昭和15年(1940年)	66,094	-	2,045	32.3
昭和22年(1947年)	72,197	9.2	〃	35.3
昭和25年(1950年)	78,415	8.6	〃	38.3
昭和30年(1955年)	88,458	12.8	2,223	39.8
昭和35年(1960年)	116,765	32.0	3,660	31.9
昭和40年(1965年)	196,779	68.5	〃	53.8
昭和45年(1970年)	259,619	31.9	〃	70.9
昭和50年(1975年)	300,956	15.9	〃	82.2
昭和55年(1980年)	332,418	10.5	〃	90.8
昭和60年(1985年)	348,948	5.0	〃	95.3
平成2年(1990年)	345,206	△1.1	〃	94.3
平成7年(1995年)	342,760	△0.7	3,611	94.9
平成12年(2000年)	347,929	1.5	〃	96.4
平成17年(2005年)	353,885	1.7	〃	98.0
平成22年(2010年)	355,798	0.5	〃	98.5
平成27年(2015年)	374,468	5.2	3,609	103.8

※市域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(H26年)による。



4. 市街化動向

明治時代の官営鉄道（現在の JR 京都線）の開通や大阪麦酒会社（現在のアサヒビール株）の工場開設、また大正時代に入ってから、北大阪電気鉄道（現在の阪急千里線）の開通や、国鉄吹田操車場の操業開始などが以後の発展のさきがけとなり、住宅地としての開発が始まりました。

大正 13 年（1924 年）国鉄吹田駅が現在の位置に移転したことにより今日の旭通り商店街が形成され、昭和に入ってから産業道路（現在の府道大阪高槻京都線）の開通などにより、今日の片山商店街が形成されました。

昭和 15 年（1940 年）、市制施行後まもなく始まった第 2 次世界大戦により市民生活も戦時体制下に入りました。戦況が悪化するにつれ、空襲に対する防火活動に支障をきたす狭い道路を拓げるため、民家密集地帯の建物疎開が始まり、主要道路のいくつかが強制疎開道路として大幅に拡幅されました。これらの疎開道路は終戦後に都市計画道路として決定されるなど、今日の主要道路網の一部を構成しています。

昭和 30 年代（1960 年代）の高度経済成長期に入ってから、我が国初の高速自動車国道である名神高速道路が本市の中央部を通過する位置に建設され、昭和 31 年（1956 年）には、日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）が千里山団地の建設を開始しました。

この頃から都市への人口集中に伴う住宅不足が深刻化してきており、大阪府は昭和 33 年（1958 年）吹田・豊中両市にまたがる丘陵地約 1,160ha に、日本で最初の大規模住宅団地（千里ニュータウン）を計画しました。ほとんどが竹藪や雑木林に覆われていた千里丘陵に、計画人口約 15 万人、計画住宅戸数 37,330 戸（当初計画 30,000 戸）のベッドタウンを建設するもので、住宅のほか道路、公園、上下水道、教育、医療、商業等の諸施設を総合的に計画され、昭和 35 年（1960 年）に都市計画事業としてスタートしました。

昭和 37 年（1962 年）以降、完成した住区から順次入居が始まり、阪急千里線も昭和 38 年（1963 年）に南千里まで、昭和 42 年（1967 年）に北千里まで延長されるなど順調に整備が進み、昭和 44 年（1969 年）にはニュータウン人口が 10 万人を超えました。

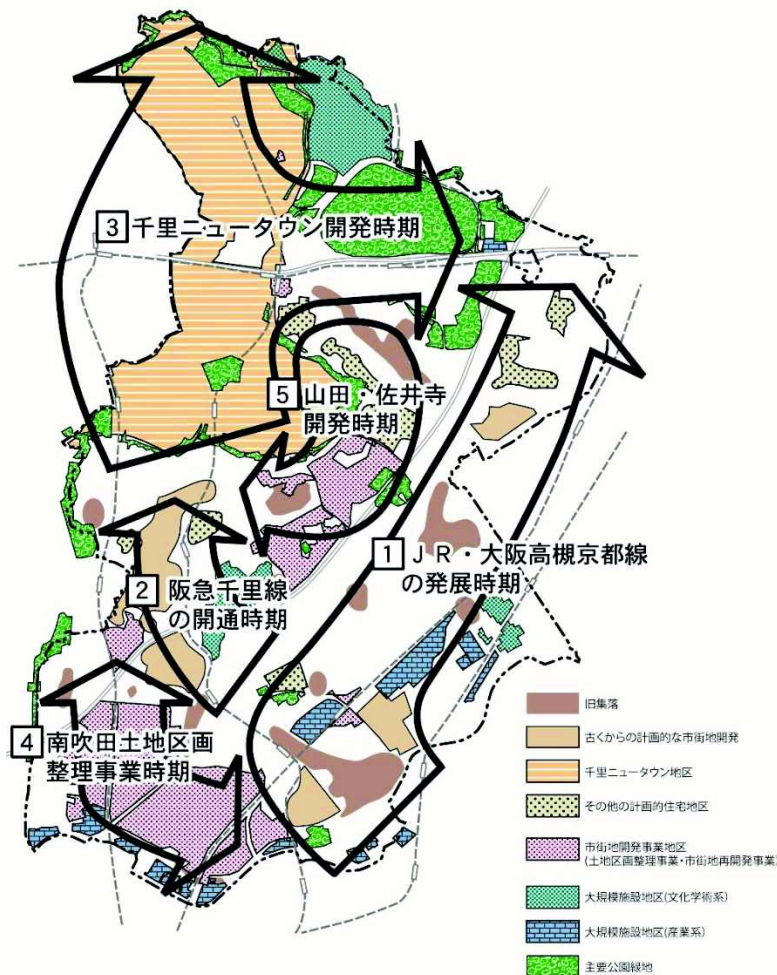
このニュータウン建設に関連した道路、公園、下水道等の都市基盤の整備も大幅に進み、本市の北部における骨格を形成するとともに、昭和 45 年（1970 年）に開催された万国博覧会に関連した基盤整備事業と相まって、新御堂筋、大阪中央環状線、中国自動車道、近畿自動車道といった広域幹線道路や鉄道網が整備されました。

万国博覧会は「人類の進歩と調和」をテーマに約 330ha の会場で開催されましたが、その跡地（約 264ha）は現在、緑に包まれた文化公園として整備され、国立民族学博物館、大阪日本民芸館などの文化施設をはじめスポーツ施設も数多く設置されるなど、多様で広域的な利用がなされています。また、万博公園南側エリアでは、市立吹田サッカースタジアム（平成 27 年（2015 年）11 月竣工）やエキスポランド跡地を活用した複合施設（平成 27 年（2015 年）11 月開業）が建設されました。

千里ニュータウン建設の一方で、本市は無秩序な市街化（スプロール化）を未然に防止するため、昭和 36 年（1961 年）に南吹田地区で土地区画整理事業を都市計画決定して以来、今日まで、約 350ha の先行的な都市基盤の整備を実施するとともに、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、JR 吹田駅周辺などにおける市街地再開発事業を実施してきました。

最近では、千里山地域において、千里山駅周辺整備事業が行われ、独立行政法人都市再生機構による千里山団地の建替えや阪急千里線を跨ぐ跨線橋、駅前交通広場などが順次完成しており、都市計画道路千里山佐井寺線については残る工区の整備が進められているところです。岸部地域では、吹田操車場跡地において土地区画整理事業が完了し、国立循環器病センターと市民病院の移転建替え（平成 30 年度（2018 年度）開院予定）をはじめとする北大阪健康医療都市（健都）の整備が進められています。南吹田地域では、平成 30 年度末（2018 年度末）におおさか東線の新駅の開業や周辺の幹線道路である都市計画道路南吹田駅前線の開通に向けた整備が進められています。

◆ 市街地発展の流れ



◆ 人口集中地区 (DID) の変遷

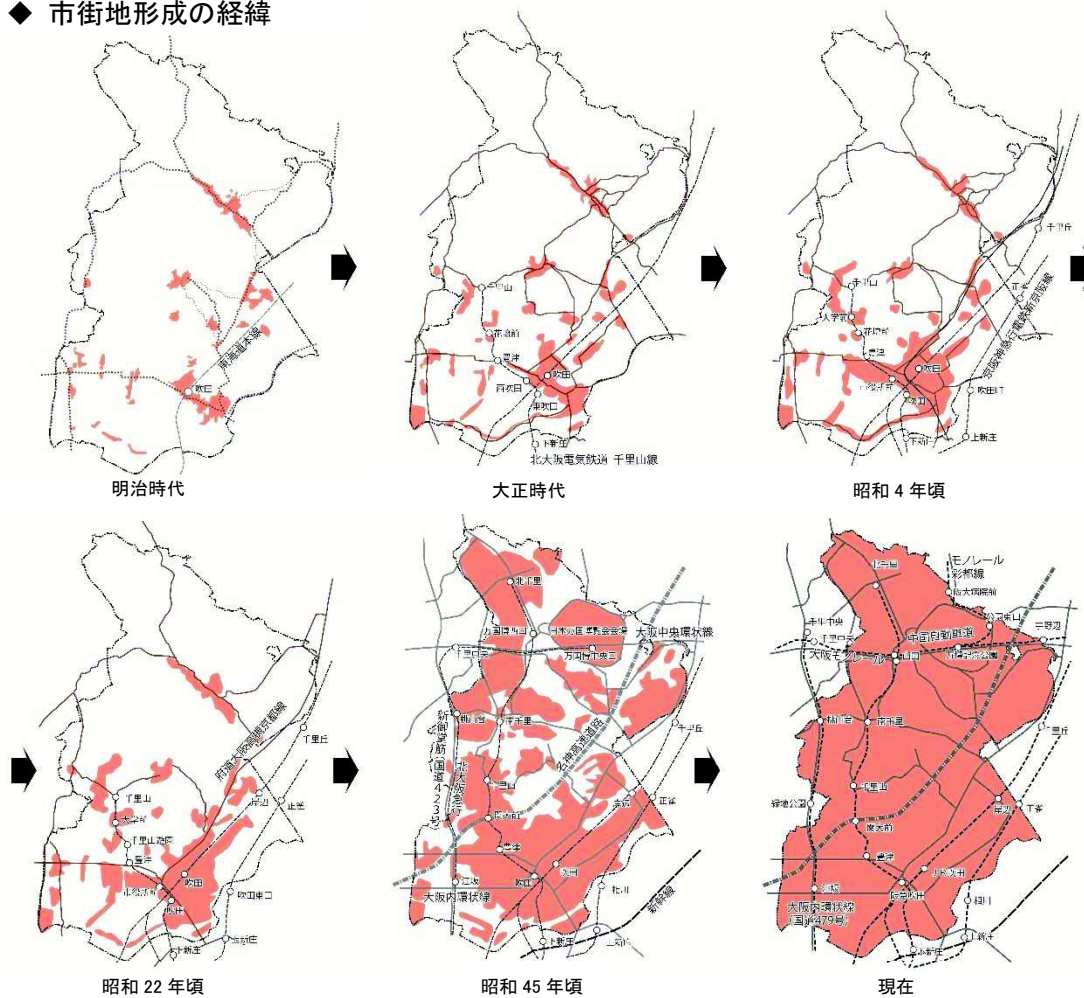
各年 10 月 1 日現在

年次	面積 (ha)	人口 (人)
昭和 35 年 (1960年)	840 (23%)	90,395 (77%)
昭和 40 年 (1965年)	1,400 (38%)	171,114 (87%)
昭和 45 年 (1970年)	2,830 (77%)	246,821 (95%)
昭和 50 年 (1975年)	3,310 (90%)	294,780 (98%)
昭和 55 年 (1980年)	3,660 (100%)	332,418 (100%)
昭和 60 年 (1985年)	3,660 (100%)	348,948 (100%)
平成 2 年 (1990年)	3,660 (100%)	345,206 (100%)
平成 7 年 (1995年)	3,611 (100%)	342,760 (100%)
平成 12 年 (2000年)	3,611 (100%)	347,929 (100%)
平成 17 年 (2005年)	3,611 (100%)	353,885 (100%)
平成 22 年 (2010年)	3,611 (100%)	355,798 (100%)
平成 27 年 (2015年)	3,609 (100%)	374,468 (100%)

※市域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」により、平成 26 年 10 月 1 日から、36.09km² になっています。

※「人口集中地区 (DID)」とは、国勢調査による人口密度の高い調査区 (約 4,000 人/km²以上) が隣接して 5,000 人以上を構成する地区をいいます。 DID : densely inhabited district の略

◆ 市街地形成の経緯



※全図とも市境界は現在の境界を表示

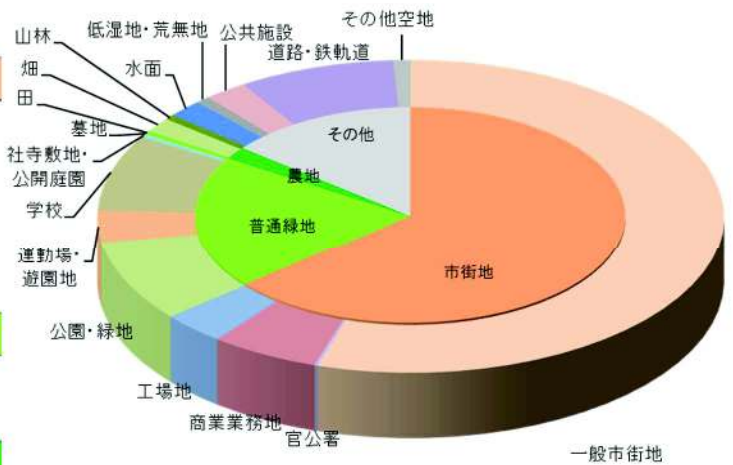
5. 土地利用現況

本市の土地利用の状況は、調査を始めた昭和 36 年（1961 年）当時には市街地が全市の 24%、農地・山林が 70%で、田園都市型の土地利用がなされていましたが、その後の社会経済情勢の変化により市街地面積は大幅に増加し、逆に農地等は減少しました。特に千里ニュータウン、万国博覧会、土地区画整理事業等による都市基盤の整備充実は、市街地拡大の大きな要因となりました。

平成 27 年（2015 年）の調査では、住宅地や商業・工業地などの市街地が 63.9%、公園・緑地・学校・社寺などの普通緑地が 20.1%、農地が 1.8%、その他山林・水面・道路・鉄道などが 14.2%となっており、市域の大部分が都市的土地利用でしめられています。

◆ 土地利用現況内訳 平成 27 年 10 月 1 日現在

	項目	面積(ha)	比率(%)
市街地	一般市街地	1,976.3	54.8
	官公署	7.0	0.2
	商業業務地	202.6	5.6
	工場地	118.9	3.3
	小計	2,304.8	63.9
普通緑地	公園・緑地	309.0	8.6
	運動場・遊園地	118.8	3.3
	学校	282.6	7.8
	社寺敷地・公開庭園	12.5	0.3
	墓地	0.8	0.0
	小計	723.7	20.1
農地	田	12.7	0.4
	畑	53.3	1.5
	小計	66.0	1.8
	山林	18.9	0.5
	水面	64.5	1.8
	低湿地・荒無地	26.3	0.7
	公共施設	80.7	2.2
	道路・鉄軌道	291.9	8.1
	その他空地	32.2	0.9
	合計	3,609.0	100.0



※都市計画基礎調査による。面積はおおむね 0.5ha 以上のまとまりのあるものを測定。